

第32期目録委員会記録 No.15

第15回委員会

日時：2010年7月31日（土）14時～17時

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：原井委員長、木下、酒見、高橋、鴫田、平田、古川、本多、横山、渡邊  
<事務局>磯部

[配付資料]

- 1.[排列に関する目録委員会への質問ほか]（2ページ-A4、事務局）
- 2.平成22年度書誌調整連絡会議について（素案）（2ページ-A4、横山委員）
- 3.「目録の作成と提供に関する調査」回答状況（10ページ-A4、事務局）
- 4.入力仕様書（9ページ-A4、事務局、酒見委員）
- 5.NCRとISBD Area0との対応（2ページ-A4、東委員）
- 6.他の目録規則、国際規格とNCRの比較（14ページ-A4、鴫田委員、平田委員）
- 7.NCR改訂の方向性について（検討メモ）（7ページ-A4、原井委員長）
- 8.第32期目録委員会記録 No.13（3ページ-A4、事務局）
- 9.第32期目録委員会記録 No.14（案）（4ページ-A4、事務局）

[報告事項ほか]

1. 平成22年度書誌調整連絡会議について

国立国会図書館が毎年開催している標記会議について、資料2に基づき、横山委員から今年度の案が示された。今年度は「目録の諸相」をテーマとする予定で、目録委員会に対しては、NCR改訂方針の動向紹介が依頼されている。「次期NCRについて」を原井委員長が発表することになった。

2. 全国図書館大会について

8月17日に渡邊委員が下見を予定している。

3. ISBD

意見は渡邊委員から送付済みである。IFLAでの話題になる予定。

4. RDAについて

プリント版が秋に出るが、当面、ファイルをダウンロードしておく。情報共有できるようにしたいと原井委員長からの意見があり、無料のファイル共有サービスを検討することとなった。

5. NCRの改訂方針の原稿チェック

来月全国図書館大会で発表の原井委員長の原稿チェックはMLで行い、9月4日の委員会で確

定する。他の委員の原稿はチェックしない。前日までにパワーポイントの資料を渡邊委員に送る。

#### [ 検討事項 ]

##### 1. NCR32.3 の解釈について

タイトル標目が同一の場合の排列に関する質問について、資料1に基づき、横山委員から問題提起があった。物理単位の記録を作成するときは巻次で排列するが、そうでなく単行単位の記録を作成するときは32.3で規定されているとおりであることが確認され、それに基づいて横山委員が回答案を作成することとなった。[ 追記：8月5日に回答済み。 ]

##### 2. アンケートについて

資料3に基づき、事務局よりアンケート調査の結果の報告があった。7月30日現在の回答率は7割近くである。アンケート送付数を加えた上で、常務委員会に報告する。今後、データ化するにあたって、「入力作業の仕様書」の検討が必要（たとえば、イレギュラー文字の処理・訂正文の処理など）であるという問題提起があった。木下・酒見・本多委員がアンケートの集計・分析・結果報告の対応をすることになった。来年度中に報告書を出すことを目標とする。

##### 3. NCR資料種別とISBDとの対応について

東委員の作成した資料5について検討を行った。

書写資料 media typeにmicroform等が入っている点について、electronicが抜けている等、NCRの資料種別から出発しているのがよいのかどうかという疑問について検討した。この表はArea0の用語の日本語化および対照表をつくることを目的としている。それぞれの体系をもとにして、NCRを当てはめていくほうがよいのではないかということになった。

その他、Sensory SpecificationはContent qualificationの下位に位置するのではないか。日本語で定訳を決めているものについては入れたほうがよいという指摘があった。RDAについても引き続き作成する。

##### 4. NCRと他規則との比較について

平田委員・鶴田委員から資料の説明があった。作業の目的は外国の目録規則が目録の目的をどのようにあらわしているかの調査であった。FRBR対応しているREICATは、体系としてはFRBRの枠組の説明をしたうえで、ISBDを温存しつつ対応している。ネットワークでの目録を前提としている。NCRの序論が課題であることを確認した。

また、FRBRを受けて改訂された目録規則の有無や最新のヨーロッパの目録規則の更新状況は調べておきたい。韓国については高橋委員が調査中である。中国について動きがあるかどうか横山委員が確認することになった。

##### 5. NCRの改訂案について

原井委員長から、資料の説明があり、4ページ目の区切り線前までは大会要綱にしたがい、変更した部分である。変更した箇所は下線。この部分で網掛けとなっているのは、要検討課題として残っている点である。4ページ目で今後の残課題とスケジュール案が書かれているという補足があった後、検討を行った。

- ・全体のスケジュールとしては、9月に体制案を出し、10月から作業着手とする。

- ・記述についての意味確認等を行った上、修正すべき点が指摘された。1ページ「記述対象の多様化」「記述対象の多様化へのきめ細かい対応」、「コアエレメントについて、RDAと異なる日本独自の規定を設ける」「RDAを参考にしながら」、3ページ「構成書誌レベルでは」「構成書誌レベルなどの下位書誌レベルでは」、「3種類の関連」「3種類の関連指示子」、

- ・残課題について、排列や典拠レコードを範囲に含めるかどうかの問題提起があり、排列は基本的には取り扱わないが、付録とする可能性はある、典拠レコードは対象としておきたい。所蔵レコードについても、とりあげる。来年度くらいまでに、残課題のうち、関連と書誌階層規定、対象資料の種類、新規レコード作成に関する規定を検討したいという委員長からの優先順位が示された。作業レベルでは、注記の中からエレメント化すべきものの拾い出し等を行う。

- ・パブリックコメントの募集については、目録委員会のウェブサイトアップし、『図書館雑誌』10月号に掲載されるように原稿を準備する。メールマガジンでも配信する。年内で募集し、パブコメへの対応は来年くらいに公表する。なお、今年度中は改訂方針（案）で、来年度に改訂方針を公表する。その時点では案はとって、基本方針は変更しないものとする。方針案への意見は、現行NCRの改善点も含めて受け付けるが、現行NCRへの意見や細かい条文へのパブコメには個別に回答しない。今後、分科会ではなく、検討集会を持つほうがよいという意見も出された。

- ・次回スケジュールは下記のとおり。大会報告案をチェックするとともに、9月からの体制を決める。

#### 次回以降の委員会の予定

9月4日（土）

10月2日（土）

11月 27日（土）